府中市男女共同参画センターの事業計画及び運営に関すること
について

「府中市男女共同参画センターの事業計画及び運営に関することについて」は、当協議会では次のとおり検討を行いましたので、答申します。

1 男女共同参画センターにおける啓発事業等について

(1) 男女共同参画センターの施設及び事業の周知活動について

令和5年度に実施した市民意識調査結果では、男女共同参画センターを「知っている」と回答した市民は34.5%と、施設の認知度の低さが懸念されるところです。令和6年度においては各市営施設や商工祭り等にて、男女共同参画センターを紹介するポケットティッシュを配付するなど、課題の改善に向けた取組がおこなわれているということですので、引き続き、周知活動を進めてください。また、他自治体等の男女共同参画センター等の状況を把握し、運営方法の参考に数などの改善を図りながら、また、SNS等での周知活動も検討しつつ、引き続き、事業の周知や利用しやすい環境の整備に努めてください。

(2) 男女共同参画に関する講座の実施について

第6次府中市男女共同参画計画のもと、男女共同参画社会の実現に向けた各種主催講座のほか、東京都や市内事業者と連携し実施する共催講座や、市民により構成する実行委員会や登録団体等と協働して実施する府中市男女共同参画推進フォーラム、市民団体が企画及び運営する市民企画講座や協働講座などの意識啓発事業が計画どおり実施されています。

また、女性が活躍するためには、男性の働き方改革や家事・育児・介護への参画が必要不可欠であり、男性をターゲットとした講座の企画が進められていること、さらに市内事業所に向けての意識啓発事業では、令和6年度においては「男性育休」をテーマとしたプログラムを導入し、昨年度の課題を踏まえ、働く人が参加しやすいオンライン・動画視聴の形式で意識啓発を行ったことは、評価します。

引き続き、継続的な意識啓発をお願いします。

2 ドメスティック・バイオレンス（DV）被害者への支援について

DV等の被害者支援として、「フューラル」では「女性問題相談」を行っているところですが、昨今のDVの被害内容は複雑化しており、被害の渦中にある相談者は自身の判断能力や行動力が著しく低下していることも多く、相談員としては情報提供だけでなく、被害者の状況を専門的に分析し、支援する相談体制が求められていると思います。令和6年4月からは「困難な問題を抱える女性を支援する新法」も施行され、「女性問題相談」の担う役割も複雑になると思いますので、相談員の相談スキルの向上に努めてください。

また、令和5年度に実施した市民意識調査では、自身や身近な人が暴力を受けてる、もしくは受けていることに気づいたときに、「相談したかったが、相談先を知らなかった」と回答した割合が15.6%でした。今後も、積極的に相談窓口の周知に努めてください。

さらに、DV、デートDVは当事者が気づきづらいこともあり、潜在的な被害者は多く存在するため、若年層への意識啓発は重要であると考えます。現在も大学や市内中学校と連携し意識啓発講座を実施しているとのことですが、今後も継続的に意識啓発、相談窓口の周知に努めてください。